

発症から18分後のエピペン注射では命を保てない 迅速対応できる研修と訓練が必要

市立学校で発生した食物アレルギー事故への対応に多重ミス

10月30日の市議会文教経済委員会(上野公悦議員が所属)で、9月5日におきた食物アレルギー事故の経緯が報告されました。

これは、市内のある学校で、アレルギー疾患を持つ児童には提供してはならない「乳成分」が入った給食を食べた児童が重篤なアレルギー症状を発症し、救急搬送され入院したというものです。

この事故では、児童が給食を3分の1ほど食べた後、腹痛を訴えてトイレにかけこんだとのこと、この時点でアナフィラキシーショックが生じていたことが推定されます。

ところが、学校では、児童に対するその後の対応にいくつもの問題があり、アナフィラキシーショックに対応する緊急薬であるエピペンを打ったのは、発症から18分後だったとのこと。

通常、エピペンは5分以内に打つとされていますので、大きな問題です。

また、この日の給食に乳成分が入っていた原因は、栄養職員が事前に成分を確認しなかったことや、調理員が原材料の確認の際に記載を見落としたことなどがあり、複数のミスが重なっています。

そして、担任は「乳成分は入っていない」とかたくなに思い込み、誤食によるアレルギー反応だとは思わなかったなど、考えられないミスが重なった結果とのこと。

この児童の主治医によると、「今回はたまたまこの児童の生命力の強さが幸いして命を落とさずすんだが、条件によっては死に至る寸前であった」とのことですが、このような重大な事例であることを、教育委員会を始め、関係諸機関は重く受け止める必要があります。

なお、この学校では、前記の主治医による校内研修を7月下旬に行ったばかりとのこと、その研修が全く生かされなかったことになりました。

上野議員は、この委員会ですら上記の件を細かく指摘し、教育委員会による指導の徹底、専門医による実効性のある研修の実施、詳細な事実関係の公表などを求める発言を行い、今後の教訓として生かしていくことを求めました。



エネルギー価格高騰支援金の追加などで臨時議会

中川市長は30日、臨時議会を招集し、中小企業や個人事業主など向けのエネルギー価格高騰支援金の不足分の追加などの補正予算を提案しました。

これは今年6月から行っている支援で、市内の中小企業などに対して、昨年度

計上した光熱水費、燃料費の一部を支援するものですが、不足が見込まれることから追加予算を計上したものです。

そのほか、この夏の干ばつ被害への支援として、農業者に対する融資の利子補給、水田復旧費の支援金の

追加も計上されました。

このうち、水田復旧費は、妙高市や糸魚川市では経費の85%が支援されますが、上越市では65%にとどまっており、橋爪議員は総括質疑で「農家からも補助率アップを願う声が出されている」と迫りました。

市政・県政報告会で切実な願い

市議会と県議会の9月定例会での論戦内容や現在の市政と県政の状況を報告する会を、30日夜、市民プラザを会場に行いました。

約20人の市民を前にした報告会では、橋爪団長の挨拶の後、馬場秀幸県議が県議会と県政の現状について語り、その後、3人の市議が市議会と市政について報告しました。

参加したみなさんからは、議会の論戦に限らず、暮らしの中での困りごとや願いが次々に出され、時間が足りなくなるほどでした。出された主な話題を紹介いたします。

- ☆ 有間川漁港の突堤が立ち入り禁止になり、釣り人はより危険な波消しブロックに追いやられているようだ。なんとかならないか。
- ☆ 10年前から年次的に設置したLED防犯灯の更新時期が来ている。すべて町内負担すべきものなのか。
- ☆ 新幹線「かがやき」は、せめて朝・昼・夕だけでも上越妙高駅に停車できるようにできないか。
- ☆ 廃棄物の最終処分もできないような原発は動かすべきではない。なんとかしてほしい。
- ☆ 労災病院を守ってほしい。

日本共産党上越市議員団ニュース
No.810 2023年11月5日
連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))

上越保健所管内 新型コロナウイルス感染症感染者定点報告数
10月16日～10月22日 6.88 (県3.70)
上越保健所管内での感染者数は、県平均に比べ引き続き2倍近くになっています。